

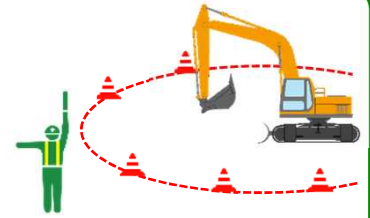
## 安全意識の欠如が重機事故につながります ～「大丈夫」という思い込みは厳禁です～



重機接触事故は「建設業の三大災害」といわれており、ひとたび事故が発生すると死亡事故等の大きな被害をもたらします。重機の危険性を再認識し、使用するときは常に安全に配慮しましょう。

### 立ち入り禁止範囲の明示

- 重機は多くの現場で日常的に使用され、作業員に“慣れ”が生じます。そのため、危険性を認識していても「大丈夫だろう」と安易に考え、作業半径内に立ち入り被災する事故が発生しています。
- 重機の作業範囲や移動経路等、重機と作業員が接触する危険がある箇所には、**バリケードの設置によって立入禁止区域を明示**しましょう。また、**監視員を配置**しましょう。
- 重機の運転席からの死角は多く、作業中は操作に集中しているので周囲の状況が見えなくなる恐れがあります。また、危険を知らせる声が騒音で聞き取りにくい状態にあります。**重機周辺の作業員は大きな危険があることを認識し、安全に自分の作業ができるよう行動する**必要があります。



### オペレーターの選任及び資格保有

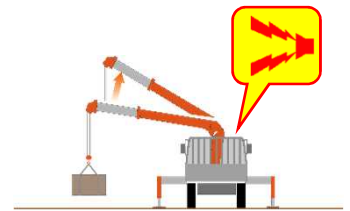
- 重機の運転業務には必要な資格が定められています。**資格所持者のみが運転する**ように各現場で**オペレーターを選任**しましょう。たとえ、作業を伴わない重機の移動だけであっても**オペレーター以外が操作することがないように重機の鍵の管理**を徹底しましょう。
- クレーン機能を備えた車両系建設機械でのクレーン作業では、他のクレーンと同様に当該機械の**吊り上げ荷重に応じた資格が必要**です。また、玉掛け業務についても玉掛けの資格が必要です。

### 誘導者・合図者の配置

- 路肩の崩壊、地盤の不同沈下による車体の転倒・転落を防ぐため、傾斜地や路肩のそばで重機の使用・移動をする時には**誘導者を配置**しましょう。
- 誘導者はベストや腕章等を着用し、オペレーターが判別しやすいようにしましょう。

### 安全装置について

- 安全装置は過負荷や誤操作、故障等を知らせ、事故発生を未然に防止するためのものや、立ち入り禁止区域内の人や物体を検知するもの等、様々なものがあります。また安全装置には、異常を検知した場合に自動的に動作が停止するものや機械は異常を知らせるのみで操作者が停止の操作を行うものがあります。**取扱説明書を確認し、各安全装置の特性を把握したうえで作業**を行うようにしましょう。
- 安全装置が付いているから安心なのではなく、その機能をオペレーターが活用することが安心につながります。オペレーターは自らの技量を過信せず、**定められた操作手順、作業計画に従って操作・作業**を行いましょ。
- クレーン機能を備えた車両系建設機械では、移動式クレーン構造規格に規定されている**安全装置等を切り替えスイッチ**により有効にするものがあります。クレーン作業に際しては必ず**有効な状態にして使用**しましょう。



### 強風による転倒

- クレーンは風の影響を受けやすく、ジブや吊り荷が風にあおられてバランスを崩す危険があります。**クレーン作業の際には事前に天候を確認し、強風の予報が出ている時には転倒防止措置を講じ、作業中は風の状況を確認**しましょう。また、危険が予想される場合には早めに作業を中止しましょう。

少しのミスが重大な事故になりかねないことを留意して、**安全対策を徹底**しましょう。

# 悪天候・異常気象には事前の準備が大切！

～事前準備で被害を最小限に留めましょう～

豪雨・強風が予想される場合は、早め早めに事故防止の対策を講じましょう。

## 事前の情報収集及び確認

- 台風の進路や線状降水帯の発生については、手間がかかるとしても、**最悪の状況を想定して事前に準備**をしておけば、豪雨・台風に見舞われても直前になって焦ることはありません。
- また、現場では悪天候でなくても、上流の豪雨によって下流での氾濫や増水による被害を受けることがあります。河川に近接した現場では作業範囲だけではなく、**上流の天候情報も把握**するようにしましょう。
- 風水害が多い時期の前には、責任者は**悪天候による作業中止基準**、**作業中止の指示を誰が出すかについての再確認**、必要な**資機材の準備**をしておきましょう。



## 安全対策

- 地上では大した風でなくても、高所では強風になる場合があります。強風の中でのクレーン作業はコントロールが難しくなり、事故につながる恐れがあります。**悪天候が予想される場合や天候が不安定な場合には作業を中止**しましょう。また、現場を離れる際には重機の状態を確認し、**転倒・倒壊の対策**を講じましょう。
- 足場の養生シート・パネルは、暴風時には足場にかかる負荷を大きくしてしまう可能性があります。**絞るまたは外す**等の対応をしましょう。
- カラーコーン、のぼり、看板、安全旗等は風で飛散する可能性があります。また、バリケードやゲートも風であられる可能性があります。台風などが接近し強風の恐れがある時には、現場内をくまなく確認し、必要に応じて、**堅結に固定**、**撤去**して事務所や倉庫に保管するようにしましょう。
- 重機はその重量から万が一転倒してしまうと甚大な被害をもたらします。暴風にさらされる時には重機のサイドブレーキだけでは不十分な場合がありますので、重機に応じた対策をしましょう。



## 熱中症にご注意

～作業員同士お互いに健康状態を確認しましょう～

### 熱中症を疑う症状



- 上記のような熱中症を疑う症状がある場合や、呼びかけに対する返事がおかしい場合は、すぐに**救急車を呼びましょう**。
- 意識がある場合は、**涼しい場所へ移動**し、**衣服をゆるめて体を冷や**してください。ただし、水分を自力で摂れない場合は医療機関へ搬送しましょう。
- 吐き気や嘔吐の症状がある場合は、すでに胃腸の動きが鈍っていると考えられるので、**無理に水分を接種させず、医療機関に搬送**しましょう。
- 水分を自分で摂れ、必要な応急処置を行ったものの、症状が改善しない場合も、医療機関に搬送しましょう。
- 症状が安定しているようでも、**決して一人にせず、症状に変化がないかどうか見守**ることが重要です。症状が改善した場合は、そのまま安静にしてゆっくりと休みましょう。
- 医療機関へ搬送すべき時は、必ずしも救急車を要請する必要があるわけではありません。安定している場合は、タクシー、社用車・自家用車等の移動しやすい方法で向かいましょう。

**熱中症は素早い対応と適切な処置が重要です。**